

# 2025 年度 東京港視察報告書

実施日:2025年12月12日(金)

対応者:関東地方整備局東京港港湾事務所・東京港埠頭株式会社

参加者:赤井ゼミ学部生ほか19名、引率教員1名(赤井<sup>1</sup>)



<sup>1</sup> 連絡先: 赤井伸郎 (大阪大学国際公共政策研究科教授) akai@osipp.osaka-u.ac.jp

## 東京港視察に参加しての感想

1. "これまで東京の街を訪れるは何度かあったものの、基本的に新宿や浅草など港から離れた場所での滞在がほとんどで港近辺をじっくり見る機会はほとんどなかったので、いい機会になりました。印象に残ったことの一つ目としては、港を取り巻く様々な環境です。羽田空港の存在に伴うクレーンなどの高さ制限や、クルーズ船などの大きな船に対応するための橋の高さ制限など様々な制約がある中で、橋やクレーンを特殊な設計にしたり、他ではあまり使わないようなものにしたりなど様々な工夫がなされていることがわかり、印象に残りました。印象に残ったことの二つ目としては、東京港の経てきた歴史やこれからの計画などです。まず、東京周辺の海の埋め立てが数百年も前から続いてきた、歴史あることだという事実にも驚かされました。さらに、一見かなり広いように思われた今の東京港ですら広さが足りず、さらなる拡張が進められていることにはより驚かされました。"
2. "天候が良くなかったため船に乗っての視察ができなかったのは残念でしたが、快晴ではあったので建物から景色を楽しむことができ良かったです。東京港埠頭株式会社の視察では、東京港のコンテナターミナルについてお話しをしていただき、首都であり莫大な人口を抱えていることから東京港の取扱量が最も多いことにも納得がいきましたが、その一方で災害等のリスクを考えた際にもう少し分散させなくてもよいのだろうか?と思いました。取扱量の上位も東京、横浜、名古屋と東日本が多く、人口比を考えると自然なのかもしれません少し偏っているようにも感じました。また、クルーズターミナルについて、東京オリンピックに合わせて造られたものとは知りませんでした。オリンピックは結果的に無観客での開催になってしまったため、経営面から見てその分の損失は回収できたのだろうかと思いました。"
3. "物流の最前線を実際に見学する中で、東京港が江戸時代に起源を持ち、日本の経済発展とともに姿を変えてきた港であることを改めて実感しました。現在も、豪華客船の大型化に伴ってターミナルが移動されたことや、東京港自体が国の事業として拡張の途上にあることを知り、今もなお変化し続けている港であることに驚かされました。また見学の中で、東京港でも港湾 DX 化が進められている一方、港内への出入りの際には搬入トラックの渋滞が発生しているという課題があることを伺いました。シンガポールのトゥアス港では、IT の導入や自動化によって効率的な搬送が実現されていますが、こうした技術の活用による効率性の向上は、東京港のさらなる発展にも大きく寄与するのではないかと感じました。"
4. 東京港には初めて訪れたが何よりも驚いたのはその規模である。広大な敷地に加え、膨大なコンテナやそれらを運搬するトラックの長蛇の列など印象的な光景を何度も目にした。さらに港を広げる、コンテナ埠頭を整備するなど、より効率的であるように開発されているという事実を聞き、東京港とコンテナ輸送が果たす経済的な規模の大きさと物流のグローバル化を実感した。また東京港の構造にも発見と驚きがあった。それはいくつもの企業が区画を住み分

けて事業に参画していることを知ったことだ。視察前のイメージでは業界の中心的企業の数社ほどが広い敷地を持っているのだと思っていたが、バースごとに細かく区分けされ、たくさんの企業が参加しているということを知り、この学びは現場を訪問したからこそ実態として理解できるものであったように感じる。東京港の視察を通して、東京港に関する知を得ることはもちろん、現場を訪れるこの意義も実感し、非常に実りある視察であったと感じている。

5. "海上輸送は、貿易や物流を支える重要な輸送手段の一つであり、その拠点であるコンテナターミナルや、歴史を学ぶことのできるミナトリエを見学できたことは、大変勉強になる機会となりました。外貿コンテナ取引量は年々増加しており今後も増加していくとされています。なかでも東京港は日本の約4分の1を占めており、日本の経済活動を大きく支える重要な港であると認識しています。一方で、コンテナ取扱量を国際的に比較すると、日本の港湾の競争力は以前よりも低下しており、貿易における日本のプレゼンスが相対的に弱まっているようにも感じています。実際に、2023年時点でコンテナ取扱量が世界2位とされるシンガポールのコンテナターミナルを見学した際には、国家が主導して設備投資を積極的に実施し、自動化や遠隔操作化を実現させることで効率化を図っているとの解説がありました。今回の東京港の見学では、トラックがコンテナを積載するために順番待ちをしている光景や、邦船三社のコンテナ船事業が統合された後も、大井コンテナふ頭において各社それぞれが区画されたターミナルを借り受け、個別に運営している状況を目にし、ターミナル運営の在り方や設備面において、さらなる効率化の余地があるのではないかと感じました。しかしながら、自動化設備等の導入には莫大なコストがかかることに加え、輸送業には多数の関係者が存在していることから、大幅な改革は反発や混乱を招く可能性があることを学びました。日本の物流システム特有の構造的な課題が依然として残っていることを知り、日本の港の競争力強化に向けた課題解決の難しさを強く実感しました。それでも、埋め立てが着々と進められており、東京オリンピックに合わせてクルーズターミナルが新設されるなど東京港は年々整備が進められていることを知り、今後東京港をはじめとして日本全国の港湾が発展していくってほしいという期待の思いを抱きました。"
6. "視察を通して、東京港は様々な制約を受けながら長所を活かし発展してきた港であると理解できました。水深が浅く船体の大型化に対応しづらい一方、港湾背後の交通網や観光資源の豊かさという強みがあり、それを活かすためにクルーズターミナルの整備をしたと知りました。以前クルーズターミナルを利用した際、そのような背景は知らなかったため、大変勉強になりました。今後さらに船の大型化が進む中、国としてどう投資し、他港も含めて効率化を図るかは国際競争力維持の観点から非常に重要だと感じました。加えて、港湾における国交省の役割を理解することができました。民間会社だけでは調整が困難なトラックの入口の整備、岸壁の工事、またそのような施策の評価・改善が役割の1つであると理解することができました。私はブルーカーボンをテーマにした論文を執筆しておりました。当日国交省の職員の方からお聞きした話ではブルーカーボンの意義を国民に伝えることは難しく、創出者が自主的に資金を得ることができるJブルークレジットはその点で理にかなっているとのことでした。

実際に政策を担当される方がどのようにクレジット制度を捉えているのかを知ることができ、ブルーカーボン政策実施の難しさが理解できました。大変勉強になりました。このような機会を設けていただき、大変ありがとうございました。"

7. 高校まで東京に住んでいたこともありお台場や豊洲にはたまに訪れていましたが、貨物の港として東京港のことを考えたのは初めてでした。埋め立てや掘削を繰り返して発展してきたこと、またそのことにより港の運用に制限があることは都市経営的な視点で面白かったです。クルーズターミナルの新設・改良のお話もしていただき、モノ・人の「港」として東京港・湾岸エリアの今後を見ていきたいなと思いました。
8. "貴重な機会をくださってありがとうございました。東京港の見学では、想像以上に多くの場所を詳しく見学することができ、とても勉強になりました。特に、東京港湾事務所の加藤所長から直接ご説明を伺えたことは、通常では得られない貴重な経験だったと思います。見学を通して感じたのは、東京港の各施設の建設や運営が、すべて慎重な計算と調整の積み重ねによって成り立っているという点です。例えば、橋梁の高さ一つを決める際にも、羽田空港の飛行機の離着陸への影響と船舶の安全な通行の両方を考慮する必要があります。また、新埠頭の工事にあたって、貨物の積み下ろしの効率だけでなく、航路全体の円滑な通行も同時に確保しなければなりません。このように、複数の条件を同時に満たすために、一つ一つの工程で綿密な検討が行われていることを知り、現場の責任の重さを強く感じました。また、配布された資料から、毎週東京港を通行する貨物船のうち、約半数が中国から来ているものであることを知りました。実際の見学中にも、中国語の書いているコンテナを数多く見ました。私は普段、都市部で多くの中国人観光客を目にする機会がありますが、今回の見学を通して、観光とは異なる形での日中間のつながりを強く感じました。人の往来だけでなく、物流や産業を通じて両国の経済活動が日常的に支え合っていることを、東京港という現場で実感できた点も、今回の見学の大きな学びだったと思います。"
9. "東京港における脱炭素化と機能強化の取り組みは、物流拠点が単なるインフラにとどまらず、環境政策と経済成長を両立させる主体へ転換しつつあることを示していると感じた。ハイブリッド型や水素燃料対応クレーンの導入、再生可能エネルギー由来電力の活用は、港湾という大量エネルギー消費分野でも脱炭素が現実的段階に入ったことを象徴している。一方で、コンテナ埠頭の再整備や機能集約は、処理能力向上と国際競争力の維持を目的とした戦略であり、環境対応が競争力低下につながるという従来の懸念を覆すと思う。今後は、これらの投資がどの程度コスト削減や安定的な物流に結びつくのかを継続的に検証することが重要だと感じた。"
10. 港湾視察では、夏の ONE のインターンを通じてコンテナ輸送や物流に関する基礎知識があったため、担当者の説明内容を理解しやすく、質疑応答も活発に行うことができた点が印象的だった。また、私たちが取り組んでいる論文テーマと関連するブルーカーボンに関するポスター展示があり、港湾分野においても脱炭素や環境配慮が重要な関心事項となっていることを実感した。東京国際クルーズターミナルは、6月に台湾クルーズで利用した経験があったが、

今回は視察という目的で訪れたことで、普段とは異なる静かな雰囲気を新鮮に感じた。天候不良のため船上からの視察は叶わなかったものの、港湾の役割や今後の可能性を学ぶ貴重な機会となった。コスト面での課題はあると思われるが、今後は港湾におけるコンテナ荷役の自動化がさらに進み、運転手の待機時間が短縮されることを期待する。

11. 私は大阪出身者として、一番身近な港は大阪湾です。大阪湾は埋め立てによって作られた島が多くあり、それはごみが多く出る大阪という土地柄によるものなのかなと思っていました。しかし今回、ミナトリエにおいて東京湾の沿革と航空写真をもとにご説明いただき、東京湾においてもごみを処理するために人工島の建設が進んでいるということを知りました。また、今後150年で東京湾のスペースは無くなってしまうと知り、今後の技術の発展に期待したいと思いました。Y1からY3のコンテナ上げ下ろしスペースでは、大型トラックが一か所に集められて順番待ちをしている姿が印象的でした。日本の物流を支えているのはこの方々なんだと改めて考えさせられました。
12. 普段は単に都市としてしか見ていない東京を「港湾都市」という視点から見ることができ、勉強になりました。港湾発展の歴史的経緯、港湾関係用地の地名としての定着、現在も進行する港湾開発など、東京港について興味を持って一覧することができました。特に、ゼミでクルーズに乗ったことがある経験から、クルーズ船の巨大化に伴う新港の開発の必要性、羽田空港との関係による橋や港湾の工事における高さの制約などが、興味深かったです。総じて、生活の裏にある港湾の重要性と、そのための関係者の工夫や尽力を実感することができ、とても印象的で意義ある経験でした。港湾の各所の職員様方にはお忙しい中お時間いただき、この学びの機会をいただけましたこと感謝申し上げます。
13. "東京港の歴史からその仕組みなど多くのことを学ぶことができた。東京港が発展し始めた起点が関東大震災であったとお聞きし、改めて災害の多い日本における物流の重要性を感じた。また、国際的な流れとして船舶は大型化が進んでおり、大型船舶が停泊できる港でなければ大型船舶の航路から日本が零れ落ちてしまうため、東京港でもさらに開発を進めているというお話をいただき、船舶が大きくなっていけばすべての主要な港がそれに対応していくことは難しいのではないかと感じた。またそのような競争はどこまで続いていくのか疑問に思った。"
14. "東京港関係者の皆様、様々な貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。私は就職活動中に海運関係に興味があり、就職先も海運会社に入る予定なので、東京港に伺う前から楽しみにしていました。実際に整備を担当されている方の話を聞くことは初めてだったので、運航だけでなく、整備の進め方や苦労の一端を知ることができたのはすごく良い経験でした。コンテナ自体やコンテナ船についてはある程度知っていたのですが、コンテナターミナルの運用方法やコンテナ置き場の区分け、予約システムの実証実験など様々なところで工夫がなされていることを知りました。この経験を活かして、これから社会人生活をより良いものにしていきたいと思います。今回は本当にありがとうございました。"
15. 東京港を見学できる貴重な機会をくださりありがとうございました。私が1番興味深くお話を

聞かせていただいたのは、港湾の防災機能です。災害が起きて陸路での物資の輸送が困難になった際、海路を使って運び込むというお話を聞きました。防波堤・防風などの機能は考えたことがあったものの、そのような働きまであるとは知らなかつたため、大変勉強になりました。同時にハコモノやインフラの再整備が喫緊の課題となる中で、港湾も耐震化を進めていく必要があることを強く感じました。職員さんからは、どこを優先的にというのも明示しづらいという実情もお聞きし、耐震化や防災促進の難点を多角的に考える一助となりました。去年防災のテーマで政策提言をしたので、「あー、去年知りたかった!」ということもたくさんありました。とても勉強になった視察でした。

16. ONE のインターンに参加したことがあり、港湾やターミナルには大きな関心があったので貴重な経験になった。東京港の歴史、今後の展望、課題等を実際に港湾政策に携わる方達からお話を聞くことができた。その中でもやはり、世界における日本の港湾のプレゼンス低下が気になった。シンガポールの港湾の見学に行った際は、クレーンの自動化や港湾そのものの規模に驚かされたが、東京湾の現状はそれには及ばないと感じた。活性化させるためには湾の水深を深くし大型のコンテナ船が入れるようにする、自動化の推進など多く考えられるが、どれも多大なるコストがかかる。難題ではあるが、私が社会に出たとき何らかの形で現状の改善に携わりたいと感じた。

### 引率教員からのお礼

このたび、関東地方整備局・東京港湾事務所さまのご協力により、東京港のインフラ（コンテナターミナルや、クルーズターミナルなど）を見学させていただいた。ディスカッションを通じて、東京港の概要、日本・世界における位置づけ、今後の競争力強化の在り方などについて学ばせていただくことができました。参加したゼミ生も、日本の港湾インフラの意義を再認識したと思います。本当に、ありがとうございました。ゼミ生が、この体験を活かして、インフラ・産業の重要性、社会価値を改めて認識し、社会で活躍してくれることを期待したい。

引率教員 大阪大学国際公共政策研究科教授 赤井伸郎